

令和7年度 京都府立綾部高等学校東分校（定時制） 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）	
<p>1 3Q+4Sの推進 3Q【Quality Teacher】教師としての資質向上 【Quality School】教育内容の充実 【Quality Students】未来を切り拓く人材の育成 4S【整理】【整頓】【清潔】【作法】</p> <p>2 A・G・P 【Ayabe Global Program】の推進</p> <p>(1)高い人権意識に基づく教育活動の推進 ・自他の生命と人権を尊重し、多様な価値観を認め合う姿勢の育成 ・生徒一人ひとりの価値を尊重し、安心して学べる学校環境を整備 ・社会性を高める活動や対話の機会を重視し、思いやりの心と責任感を育成</p> <p>(2)社会に通じる力の育成 ・生徒会活動やボランティア活動を通じて、人を思いやる力、人とつながる力、協働する力を育む ・働くことを通じた実践的な学びを重視し、勤労観・職業観を確立 ・ICTを活用した学習や実践活動を推進し、情報活用能力を身につける (3)教育環境の充実 ・夜間定時制課程の特性を踏まえ、生徒が安心して学べる教育環境を整備 ・学校・家庭・地域・関係機関が連携し、生徒一人ひとりの状況に応じた支援を実施 ・教職員が協働して教育活動を進めるための校内コミュニケーションを強化 ・学校の教育活動の成果や生徒の成長を積極的に発信し、地域社会との信頼関係を深める。</p>		<p><成果> ◇京都府等の「子どもの知的好奇心をくすぐる事業」「高校生伝統文化体験」などの諸事業や外部講師を活用した「理科実験学習」などを実施するとともに、系統的な「補習」や「ふりかえり」「漢字」学習実施、iPadなどのICT機器なども活用しながら基礎学力の一層の定着を図った。</p> <p>◇連絡会での教職員間の情報交流や日常での意思疎通の機会を拡充した。また、教職員研修を実施し、実践的指導力の強化を図った。また、スクールカウンセラーなど外部機関との連携を密にし、奨学金制度の周知をはじめ、教育的ニーズが必要な生徒に対する指導支援体制の強化を図ることができた。</p> <p>◇保護者との連携を図り、該当生徒の各々の課題や教育的ニーズを共有するとともに、保護者本校の教育活動に対する支援や協力を依頼できた。また、校内で粘り強く挨拶や声かけを行い心の琴線に触れた対応を心がけ、欠席過多生徒の欠席数を減少させることができた。</p> <p>◇生徒会活動の一層の活性化を図るため、生徒会役員が主体的に企画・運営できるような環境づくりに努めた。その結果、生徒一人ひとりが主体的に行動する場面が見られ、自己肯定感や有用感を醸成し、体育祭や文化祭等の欠席者・見学者の大幅な減少をもたらした。</p> <p>◇4年生に対して丁寧な進路指導を行い、年度途中での進路変更は2名あったものの、5名の生徒が第1志望の進路を決定できた。</p> <p>◆定時制の魅力適切に発信し、中学生などの志望校選択に充分に資する一助となるように、中学校教員に向けた「学校紹介」の機能を充実するとともに就学相談員との連携を密にする必要がある。</p> <p>◆授業改善を一層進め、生徒の学びの意欲をさらに高めることはもとより、自己の役割を自覚し「自己肯定感」を高め、地域社会に貢献することができる学力を定着させる必要がある。</p>	<p>■重点1 魅力ある学校づくりと業務のスリム化の両立 ・課程間、キャンパス間、分掌間、教科間等の連携、協働を基盤とした学校運営の深化 ・教育DXの促進により、教育活動と事務の効率化を推進 ・教職員の専門性向上を支援する研修体制の充実と、校内外の学び合いの場の創出</p> <p>■重点2 充実した学びとキャリア教育で未来を切り拓く力を養う ・各課程、学科、コースの特色を活かした学力向上のためのプログラムの充実 ・探究的な学習活動の一層の推進により、生徒の課題発見・解決力を育成 ・生徒一人ひとりのキャリアビジョンに寄り添った進路支援を展開し、主体的な進路選択を促す</p> <p>■重点3 生徒一人一人の成長を支える温かな指導 ・自他の尊重とコミュニケーション力を育む教育活動の展開 ・多様性を尊重した支援体制の構築により、すべての生徒が安心して学べる環境を整備 ・規範意識と自律を促す生徒指導を推進し、主体的・協働的な態度を育成</p> <p>■重点4 協働の喜びを実感する特別活動の創出 ・協働の精神を育む場としての学校行事を充実させ、生徒の成長を促進 ・スポーツ・文化活動やボランティア活動など、多様な学びの機会の提供 ・国際理解・地域貢献活動を通じて、社会・地域とつながる意識を育む</p> <p>■重点5 地域とともに未来を描く開かれた学校の運営 ・地域との連携を強化し、教育活動に地域資源を活用 ・学校の魅力や特色を発信する広報活動を積極的に展開 ・地域社会との協働を通じて生徒募集活動を充実させ、地域に根差した学校づくりを推進</p>	
評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
業魅 務力 のあ スる り学 ム校 化づ のく 両り 立と	・課程間、キャンパス間、分掌間、教科間等の連携、協働を基盤とした学校運営の深化	(管理)綾部高校の特性をふまえた学校運営体制の強化を図る。	A	◆Teamsを積極的に導入し、全教職員が円滑に連絡等のツールとして活用した。◆入学者選抜や全日制などと協働する行事において、全日制と連携して、滞りなく運営できた。◆iPadを活用した授業では自ら学ぶ機会を持たせ、授業に参加させた。◆外部講師を招き、専門性を向上させるための研修会を催すことはできなかった。
		(教務)入学者選抜や協働する行事において、連携、協働し、効率よく運営する。	B	
	・教育DXの促進により、教育活動と事務の効率化を推進	(管理)学校DX化を推進し、職員連絡会を改善して生徒と向き合う時間を捻出する。	A	
		(教務)iPadを活用し、自ら学ぶ機会を持たせ、切れ目のない支援体制を確立させる。	B	
	・教職員の専門性向上を支援する研修体制の充実と、校内外の学び合いの場の創出	(管理)教職員間の「同僚性」を高めあう「協働的」な学びの場を創出する。	B	
		(教務)外部講師を招き、研修会を催す。	B	
う育充 で実 未し 来た を学 切び りと 拓キ ヤ カリ をア 養教	・各課程、学科、コースの特色を活かした学力向上のためのプログラムの充実	(教務)丁寧に授業を行いiPadを使って授業をきちんと理解させ、基礎学力を高める。	B	◆iPadを活用し、基礎学力を高めることができた。◆空き時間を利用して校舎内を巡回し、課題がある生徒に積極的に声を掛けた。◆殆どの生徒が進級要件を満たしたが、進級後も丁寧な学習指導が必要である。(1年)◆各生徒が他生徒との距離を自分で考え、各々に応じて落ち着いた環境で学習できた。(2年)◆教科担当等の教員と連携をとり必要に応じ学習支援を行った。(3年)◆希望進路を実現し、進路報告会では下級生に自らの経験を報告することができた。天声人語』の書写に熱心に取り組んだ。(4年)
		(生徒)少人数である利点を活かして、学力の定着を目指す。	B	
		(進路)4年生による進路報告会を実施し、在校生の進路意識向上を図る。	A	
		(4年)書写の時間を活かし、進路実現につなげる。	B	
		(3年)教科担当等の教員と連携を密にとり、必要に応じて学習支援を行う。	B	
		(2年)少人数クラスの特徴を生かし、他生徒との距離に配慮した座席配置とする。	A	
(1年)少人数であることを活かして、学力の定着を目指す。	B			

協働の喜びを実感する特別活動の創出	・協働の精神を育む場としての学校行事を充実させ、生徒の成長を促進	(教務) 生徒が興味を持つ学校行事を組み込む。	B	◆生徒会執行部が生徒の意見に耳を傾け、主体的に学校行事を計画し、多くの生徒が参加した。◆生徒会役員、生徒会行事等にクラス生徒の参加を促し、生徒会役員の立候補が得られた。(2年)	
		(2年) 生徒の成長の機会ととらえ、学校行事への参加を促していく。	B		
		(1年) 学校行事への主体的な参加を促すため、議論ができる時間をHRで確保する。	B		
	・スポーツ・文化活動やボランティア活動など、多様な学びの機会の提供	(教務) 生徒が主体的に取り組める活動を模索する。	B		◆掲示物は教室後方の掲示板とともに職員室前の掲示板にも貼り、定期的な更新に努めた。◆教室後方の掲示板を活用し、ホームルームや授業等で掲示物の存在を生徒に周知した。(1年)◆地域から地域行事やボランティアの要請、地元でのアルバイトを呼びかけたが、生徒の積極的な参加はなかった。(2年)
		(生徒) 各種取組の案内を積極的に生徒に定時する。	B		
		(2年) 地域に愛される生徒や集団の育成のために、地域行事への参画を促す。	C		
		(1年) 学外からの資料の掲示に加え、生徒への周知を徹底する。	B		
	・国際理解・地域貢献活動を通じて、社会・地域とつながる意識を育む	(教務) 教務：自分が地域の一員であることを認識されるように啓発する。	B		◆報道機関やホームページ掲載を通じて、学校の活動を広め、自分が地域の一員であることを認識することができた。◆地元企業や団体と協力した取組ができなかった。◆クラスだけでなく、全校生徒を対象に、地域の外部講師、地域の会社へ呼びかけ、地域密着型の授業ができた。(2年)
		(生徒) 地元企業や団体と協力した取組を進め、自己と地域とのつながりを認識させる。	D		
		(2年) 地域とつながるために、地域の人的・物的資源を活用した授業を取り入れる。	A		
		(1年) 地域で実施される活動の周知を徹底する。	C		
	地域とともに未来を描く開かれた学校の運営	・地域との連携を強化し、教育活動に地域資源を活用	(管理) 地元企業、各種団体などと連携し、人的資源の活用を図る。		A
(生徒) 地元の企業や団体と協力した取組を実施する。			D		
(2年) 地域とつながるために、地域の人的・物的資源を活用した授業を取り入れる。			A		
(1年) ホームルーム活動等での選択肢に、地域資源を1つは取り上げる。			D		
・学校の魅力や特色を発信する広報活動を積極的に展開		(管理) 『スクールガイド』を作成し、定時制の魅力を適切に広報する。	A	◆生徒部主催行事を含め、多くの学校行事の様子をホームページに掲載できた。◆学級から1名の生徒を選出し、『スクールガイド』などのパンフレットに掲載するコメントを作成した。(1年)◆クラスや学校の取組に対して、広報資料をつくり、報道機関への広報に努めた。(2年)	
		(生徒) ホームページ担当と協力し、学校行事などのようすを随時更新する。	B		
		(2年) クラスの取組を積極的に広報していく。	B		
		(1年) ホームページ担当と協力して、パンフレット等の広報活動を実施する。	B		
・地域社会との協働を通じて生徒募集活動を充実させ、地域に根差した学校づくりを推進		(管理) 地元企業、各種団体などと連携し、生徒の社会貢献活動を進める。	B	◆生徒会行事を中心に、生徒が企画・運営をして行事を行うことができた。(生徒)◆学級委員が中心となってクラス行事の選定や文化祭の生徒有志の募集などを行った。(1年)	
		(教務) 卒業生が地元で就職し、地域で働くことで、学校の信頼を得る。	B		
		(生徒) 生徒の主体的な生徒会活動を実施し「魅力ある学校」の一助とする。	B		
		(2年) 生徒募集につながるように、クラスの取組を積極的に広報していく。	B		
		(1年) 生徒の主体性を活かした学級経営を行う。	B		
よ学校評価係者評価委員会に		<ul style="list-style-type: none"> ・学校が楽しいと答えている生徒が多いが、どのような点が楽しいのか、さらに調査すると、学校の魅力が絞り込めるのではないかと心配している。自分の考えを文章で表現できるような従来の指導も継続してほしい。 ・地域への情報発信はできている。定員割れに一喜一憂せず、生徒募集活動や地域との連携活動など、これまでの活動をさらにブラッシュアップして継続してほしい。 ・Instagramを楽しく見ている。中学生がどの程度見ているのか、オープンスクール等で調査してほしい。 ・DX化、ICT化、AIなど、新しい技術がどんどん発達してきている。使いこなすには、教職員の学びが必要である。新しい技術を先生が使ってみないと、生徒たちに指導できない。研修といった堅苦しいものではなく、とにかく使ってみるといふチャレンジ精神が大切である。 ・生成AIに頼りすぎると、生徒たちの文章を書く能力が身に付かなくなるのではないかと心配している。自分の考えを文章で表現できるような従来の指導も継続してほしい。 ・京都府北部全体が定員割れの状態である。希望をすれば入学できるので、中学生は行きたい学校に行けるようになっている点は良い。 ・全ての課程で地域資源である外部人材を効果的に授業に取り入れられている。特に定時制は、外部人材を活用した楽しい授業を多数展開できている。 ・京都府農林水産技術センターの綾部への移転が決まっている。農業関連学科での連携の方向性を検討してほしい。 ・福知山公立大の学生など、若手の外部人材との交流は高校生にとって魅力的だと思う。課程・学科を問わずに、さらに活用してほしい。□ 			
向次性年度に向けた改善の方		<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画の評価、教育活動に関するアンケート(保護者・生徒)ともに、おおむね肯定的な回答や良い評価が多く見られる。成果はさらに伸ばせるような取組を進め、課題は1つ1つ改善していくことで、さらなる魅力化を図る。 ・DXハイスクール事業では、ハード面の充実を図ることができた。次年度は、それらの施設・設備を活用した講習などを行いデジタル人材の育成を進める。 ・教職員の研修受講や公開授業での参観者が少ない状態である。研修や公開授業に参加しやすい状況となるような方策が必要である。 ・ここ数年、制服の着こなしや身だしなみに課題が見られる。継続して、粘り強く指導していく必要がある。 ・卒業式後に進路決定した生徒が見られた。早期に進路希望を固めるよう、1年次、2年次からの情報提供や進路面談を進める。 ・多様な生徒に対応するため、スクールカウンセラーやまなび・生活アドバイザー、外部機関との適切な連携を進める。 ・農業クラブ活動、地域連携活動では、来場者が多すぎるという新たな課題に直面している。校外に駐車場を確保するなど、安全に配慮した工夫が必要である。 ・進路変更や原級留置、中途退学は少なく、安全で安心して学習に取り組める学習環境づくりを進めることができた。 ・次年度は募集定員を大きく下回る入学者数となった。オープンスクールでの発信内容のブラッシュアップ化、中学生に魅力的な学校となるように、さらなる工夫が必要である。 			